に於ける保健真質こしてスポ

村民体位向上が新しい意味

するを望んで止まない。 服、最后の蠶戰勝利へこ邁進 事實だ。全ゆる思條件をも克 **ご信念の三者協力に依る事は**

に額ずく。

(行發団-

体育向上を求めなくこも結構

ら徒らに農民が期界の方面に

るは誠に結構である。然し乍 ーツの形式に現實化しつ、あ

明治天皇御製朗詠

ではなからうか。來るべき農

う。だが然し乍ら技術ミ用桑 言を新たにするまでもなから に影響するのでない事は今更 るものでなければ、用桑のみ 勿論飼育が技術のみに編重す

時

陽氣の加減、違つてこれ又陽

氣の加減なんて云ふ馬鹿げた

舊習は此の際打破すべきだ。

期職下の勞力を生み出して行

の流水に注ふ。即ち謂はば長呼吸を全鑢に吸引して、時代繁期蠶戰へこ思ふ存分大地の



▲蠶戦ミスポーツの問題▼

惡條件が襲來しても、必ず豊 年は如何なる早パツをも古肥 する事を望んで止まない。 者側の真剣な氣持ちが相一致 作せしめてやらうこ云ふ指導 を明そうご云ふ養蠶家ご、今 こそは腕に撚りをかけて滿作 『飼育は陽氣のもの』當つて 一春の蠶戰期を迎えた。今年 國民長期抗戦裡に玆に戦捷 ◇第三日

れば可なりなのだ。理想派打舉國一致の大旗の下に結束す に備ふべき精神陶治すべき時 破、未來派撲滅! r h 年 長期抗戰

ればそれでよいのだ。 而して今や國論統一の秋! こそ、今吾々の目前に來るべ き蠶戦農繁期だ。

吾々に敎へる。新たなるもの 時代の現實はより尊い教訓を 與の壁言こする。 質真義を與へる。兹に寸感時 社會相がより奪い人間相の本

講習會記 =

住

雄

音もすがくしく聖靈の御前 四方の連山ガドたる白雪、 末だ起き出でぬ靜然たる街路 に滲む。松川にて洗顔をなし を過ぎ軈て神社に額ずく。 上より吹き來る朝風は痛く身 そぎを終りて三驤神社參拜 に流れ込む。校庭に整列、 春まだ淺い神域の石疊、踏む ◆ここしえに民やすかれこ 起床の合圖が心地よく各室 農家經濟は農家所得が家計經 經濟には必要である。 所得、經濟の均衡を保つ事が 字の經濟こなる。故に家計 らず、兩者の差額に於て所得 費たる家計費こして消費さる 化を圖らんこするには機構を 雑多岐な構成にて農家の合理 はるが、實は內容は極めて複 農家經營は一見單純の様に窺 師の農家經營に就いての講義 が大なれば黑字、少なれば赤 併し全部が消費さる、こは限 済部面に廻され、家族の生活 究明する事が肝要であり、又

て神社までかけ足。

縣が養蠶を中心ごする單純な の原因桑園の經營を說き、 次に本縣に於ける養蠶の發達 經營であつた爲め、不況以來

◇曉の露の濡たる穴串を

我が世を守れ伊勢の大神

今さ、ぐらん神の御前に

謹み 天長 四月二十 0 捷二春 九日 佳節を賀奉る 天長節

還言すれば農民は其の一鍬の 裡に真のスポーツを生み出せ ばよいのだ。吾々百姓は默々 く事が現下の農村使命ではな の靈氣に打たる。直ちにかけ に神徳を感得して泌々三太古 べに通ふ朝の微風の音も今更 皇國日本の力强き上代の調

足にて歸校。九時より徳田講 計は立ち得なくなり自然經營 の改善が提唱されるに至る。 が極めて深刻こなり、 が極めて深刻こなり、如何に繭價の暴落が著しくその影響 しても養蠶經營のみにては生

龍 共 社 印 刷 所長野縣下伊那郡竜丘村民大番地 長野縣下伊那郡竜丘村三0番地 Œ 農家經營の要諦さしては勞力 大なるものである。

竜

Fr. 島

膏

前

配印

營組織改革を促し、何時も社 村の興發ある事を說き、今后 最後に以上の如く經營にて農 會の陣頭にあつて時代を動か は青年の力にて農村の機構經 し、社會大勢の統卒者たらん

然し農村には上笛吹けご下踊 の打開開發を說く。 集ひは潑溂たる青年にて農村 は遺憾である。されごこゝの 利用活用を必要ご考へない事 らずして、農家の人々が眞の 際に利用活用を望む。 機構を認識し、試験研究を實 は試験場に來り真の試験場の に資務の重大であり、講習后 生こして出席したる光榮ミ共 場長田實講師、今日兹に講習 水を打ちたる如き靜かさであ 講習は第三日日にて愈々クラ る。夜は下伊那市田試験場分 イマックスに達し講義の際は

自由を失ふ。然し全身は何こ も云へぬ溫さを感す。 運動。指先は氷の如く冷たく 上衣を皆脱ぎ真裸こなり皇國 稍々曇りたれご極寒凛たり。 ◇第四日

合せ事項ミして左の六項目を て、意義深く終る。其の際申 一、毎朝黎明に起床する事

一、行朝神佛に對して禮拜を

一、毎月一日十五日氏神に参 **毎朝朝食前にうがひをな**

所得の如何が決定さる程に重 あるから家族勢力の如何にて 畜力等に依りて收入の邁遍な にありては家族勢力が所得で きを期する事、殊に小農經營

関民保險法の制定農村金融の合理化

農地制度の確立

農村生產力維持增進

農業保險制度確立

事を望む。

午前中は感話會各講習生の感 想又將來の大望等の發表あり ◆第五日目

何に意義深きを物語る。 かけ聲には五日間の講習の

政策。戦時体制下に於ける農村の諸 事項こして左のト項目をあぐ 事變下に於ける農村對策要望

し桑芽伸長を促すがよい。

を残して枯損部を剪除する

すここ

午後は松本聯隊區司令部横倉 講習生一同は眺む。 て送別をなす。

諸関体の整備統制

農林行政機構改革並

農家生活の安定

講義終りて元氣よく修養團歌 の性質事變觀等を說く。 中佐離話。長野縣に於ける國

合唱凛々列々たる寒氣に大太 郡の現勢について約一時間、 いつしか賑はしさも止みて就 たり。戸外は凍雲は頭上に壓 別れをおしみ各班各室よりは 五日間の講習ももう余す一日 臨む。夜は郡農會副會長誅話 非常に快感ごなり夜の講義に 藤の湯に入浴、往復かけ足 して明日の天氣を氣遣ふ。 元氣よく團歌、合唱等で騒然

鼓の響が滲み透して行く。

て体にかゝる。然し元氣よき 運動、粉雪紛々さんく~こし 今朝も眞裸にて最後の皇國 よい。若し右の方法により芽 蠶専用桑園に臨時變換するが

らぬ爲め、講習中今日を以 習においでにならなくてはな り行く先生の姿を茫然ミして 力强き激勵の言葉を残して去 輪湖先生は急遞諏訪の青年 ・集會の際は必ず時間勵行 、食前食後に感謝默疇の辭

こ又ドイツ敗戰の原因を說き 防獻金、慰問金叉從軍嘆願書 をさき疲勞囘復の爲め大平町講話後夕方二時間許りの時間 各自の獻身的努力を熱願さる つて神もよみするに、實に立 十億のアジア人種の爲め、又か、る性質ではなく忍慾ご約 慾であつた。然し今度の戦は 戦争はいつも宗教、名譽征服 つべき時に立つた聖戦である 世界人類の爲め正義の戰であ 等の數字的說明あり次に事變

の上昇を待つて代截し、夏秋 る牧葉見込の少いものは樹液 その儘存置するも今期に於け 害で且桑樹の衰弱甚だしく、 數の約半數に達する程度の被 日目頃、桑樹を剝皮して芽痕 の方法による事が良い。 を受けたる桑園に對しては次 による方法、覆蓋、クン烟等 之が豫防方法こして智利硝石 拘らず被害を受けて來たが、 を檢し、黑變したるもの全芽 先ず春季使用桑園では凍害ニ 豫防を御奬めするが一度被害 の方法があり極力勵行により 桑鼠の凍霜害は毎年多少に

前 后處置に就い 之だけの注意は是非肝

過燐酸石灰を加へて施すが

之を取除き太陽の幅射熱を 除いて休眠芽の萠出伸長を だしく。新梢の凍死せるもまた夏秋蠶専用桑園で被害 は之を剪除するご共に、根 用して發芽を促す。 間は皆コモ類で被ひ、日中 夫々適當に交叉横臥させ、 仕立のものは株際の土を搔 蛙の方向に各枝條 き刈の甚 利は夜

したものはその基部三、四 被害輕く新梢の先端のみ傷 又然りだ お練りの後の爲かも知れぬが しつかり飼はうぜ 0 C X

しむ。式辭皇居遙拜、次第 講義終りて各々室の掃除 暗默の中に固 いたてしに譯か te 事 て像がな日にぜ Ŧi.

大きな夜具を脊負ひ、三々 講話を拜聽したにも拘はら は勿体ないこの覺悟を持つ て生かし、決して無駄にし 角握つただげを自分の力ミ なく感ずる所であるが、兎 つた事を、生活に對して申 實に不用意であつに事义想 決意をなし 雨崩々たる夕暮 其の何分の一も會得出來な も及ばぬ人格者を講師ミし 間を回想して實に形式的で 續き閉講式にうつる。 い講習に自分達の生活意識 くれて行く閉講式、中に五 つて茫さして煙り春色を感 綿雪片々たる雪も今は雨ご

が救濟されるのでなく農村自 様に、經營調査をなすべきを ら幼き政治政策を動かし得る が立派に行なはるれば、農村 終りに國家に於ける政治經濟 財政調整交附金制度の確立 出身者の保護等につき詳細 軍需農産場調達法の合理 税制の根本的改革並地 時局産業に從事する農村 凍霜害桑園 農業

は腐熟人糞尿を海めたもの には性肥料を用ひない方が いが、地方の不充分な桑園 | は性肥料を用ひない方がよ|| 而して一般に被害酸芽促進 要 で

根刈仕立のものは桑條の先 よに を 心がまへ 兹にも發露 床しい限りだ 0 × ****

覺ましい。白エプロンの活動 の勞力率仕も春なればこそ目 銑後運動の完璧布陣、各地

重時がうかがはれる けた様だ。これでこそ村民緊 銃後の花見、まるで底の抜 ×

滅しつ、 養蠶家は一苦勞 桑の芽もすでに芽を切つた 之からが最も肝要、○霜を警 ****

進する。

ばつくと意様やら農場やら 櫻も例年より早く咲いた 劍

ダガ誰でもいい、善い村政 でお百姓も一苦勞だ は俺達の眞實の言葉 に? 神様ばかりが知るのみ 村長改選期到來、果して誰 ばつく一待期の布陣ヂャミ ×

當時者ならば……… 二期務めた代田氏勿論 Ċ × ♦

誰だか村議以外の人が、かつ 伊藤サーンに變つて、島岡サ ぐ人物があるこか? 尚村助役勿論、サテ**今一人** 農會技術員更送、腰の重い まだ齢は若い。元氣だ ×

明朗教育への観化、木下校長 まるでガラリミ變つた。 のか、今年の教育異動 への期待又大きい 俺達の期待は大きい 追ひ出したのか、逃げだし 0 × \Diamond

うな奉安殿、國民長期抗戰へ 勞働奉仕のみで落成出來そ ○ × 十四中

四十二分以

春

今年

二十一中

秋 今昨 年 1111

卅八分 ク

四、左の各項に該當するもの

は決定配分の際半掛を減ず

昨年

夏 今昨 年年

四中

州五分 ッ

二十一中 二十分以內

四中 三十分以內

十四中

卅四分以內

十四十

五十七分以上

本年度原料 西 舘 0 口龍 方 西 針

導方針に基づいて組合員、男本村産業組合では常局の指

た教育事業ない

期別 夏 春 1 指定蠶品種 支一○七號 、 支一○七號 主品種 × 安平 泰和 補助品種 支口品 1

二、解舒賞に對する規定 一、指定蠶碩家 大龍社 决定配分の際登掛を増配す 左の各項に該當するものは 八月廿八日以降掃立のもの 昨年(十二年) 特定品種 ×歐中巢

したから、差出しの際御注意(一貫六十六匁)に變更されま の處、去月廿一日より四 小包は從來六粁(一貫六百匁 北支及揚子江方面宛、軍事 杆

事業は現在各組合が爲し來つ

安全週間表彰

れた。全週間表彰狀三等賞が授與さ 田署工場懇話會總會席上に於 龍西館工場では四月九日飯 昭和十二年九月實施の安

家の 光讀書

夏

昨年

二十一中

一四

计八分以内 六十二分以上

去る三月三十日夜本村に初

本村農會、信用、電氣、販賣

部落懇談

會

0

概况

こなつて居る。

購買利用各組合共同主催にて

戦時下經濟に於ける國民融和

村長兼組合長代田市郎

今年

二十一中

二十八分以內

十四中

四十分以上

御製の朗誦を行ひ、一冊の家 又誌面の研究や歌を唄つたり

聞づつ雑誌を持つて輪讀し、 會が開催せられた。 光も多勢で愉しみ合ふ方法 席者は全館從業員のみ。一 つて喜びの中に終つた

し右二項も該當時間により

二十一中

世八分以內四十八分以上

今年

十四中

肝要 る場合は價格の一割以內の にして本組合の指定獎勵セ 助成を爲す る改良製簇を購入使用した 軍 事小包に 御 注 意

今年(十三年)

二十一中 廿四分以內

十六名、合計百つ二名、竜丘 組合供輸組合員に對し 四十六名、普及會石灰育計五

聯合會大龍社系石灰育者計

會 况

めての催しである家の光讀書 村民に深い理解を與へ好詳で 二、國旗に對し敬禮 次の如き次第にて、 各區別に開催された懇話會は 三月十四日より五日間連夜、 あつた。 一、着席開會

一般出席

今后に於ける地元村民の理解

ご援助を希望し、豫め諒解を

時又驛西南方地籍へ聯合々同 週間の意義を說き、更に本村

工場敷地決定されし經過並に

二十一中

十四中

廿八分以內五十分以上

昨年

丘產業組合 育船 委員會

時局ご聯合會合同工

時局に問題化して居る電力の

决定に闘し村民の覺悟

皇居遙拜

開會の辭

今村常務

て天候口挽の時の方針により て多少の増減はあるべし 一、養蠶實行組合又は組合員 共の實數調査の上、百枚に 良簇を新調使用せる場合は 付五拾錢也の助成を爲す にして本組合の指定せる改 養蠶實行組合又は組合員 よ 7 9 6) 敎育部長 委員は左記が郡部會長、北原 ご組合教育の事業の統一の爲 阿智之助氏より囑託された に活動する事になつた。 目標にした教育部委員會を設 委員 氏

委員 會庶 主同 關島林郎 計務任副 原健三 岡村哲 下平久雄 北澤小太郎 加藤寅之助 木下校長 今村禮治 代田喜一郎下平芳太郎 小林善

下平三七 原源一 中島清志 木下茂男 代田てい 代田华七 今村将市 塚牛菜 北澤莞 林二與子

前島正三

それが有効適一切の運用を期 する爲である。 事業豫定は次の通りである 、教育者產業組合講習助成 * 部落別懇談會開催 、家の光讀者大會開催 、竜丘時報發行補助 小學校組合關係教育補助 講演講習會の開催 農村中堅青年養成講習出 産業組合婦人大會の開催

部落組合單位の共同經營を理

を知らしたいものである。

熱し易く醒め易いなぞこ云ふ

一、產業組合青年聯盟事業助 家の光讀講普及會の開催

に於て、教化事業費ミして取前配のうちには今まで各組合

の狀勢 | 二割一分六厘 竇蹟如何は非常なる注目の的本年度養蠶成績に於ける其の 扱ひ來たものを、今后新たに のである。 教育部事業の内に包含したも

本村に於ける

石灰育

春窓難筆

生

俵に達した事がある事を想ふ 出の最も多かつたのは、拾萬 支那こして今まで最も養蠶の 速に樹立される事を望むものこ、治安が回復後の對策が急 る。支那が過去に於て生糸輸 旺んな主要地帯である由であ 切なりだ。 目下皇軍が占據中の地區が

紀憂ならば幸甚のみ 興を恐るか? 支那軍を恐れず支那養蠶の勃

六、電力國家營理等ミ本村電

氣利用組合の將來につい

ミ友人、知人の出征當時の元 氣な面影を浮べ乍ら、心樂し 線からの軍事郵便を受取る すべく指示されてゐるので、 の資金を毎年教育事業に使用 の元に統一し、且つ法定によ り三組合の各羽余金より一定 一貫せる方針 七、信用組合の貯金ご貸付に 将來の見透しを語り興味深い 影響があるかに就いて、其の 山
三
我
が
竜
丘
組
合
に
い
か
な
る

八、村農會の農業指導方針ミ 相互扶助の精神を説き信用組 合貯金の奬めに就いて語る 軍部供出品について 就いて清水信用組合長 伊藤農會技術員

供出品の使命に就いて語る **鬼皮、ホーレン草なごの軍部** 想ごし、更に軍部供出品たる 九、國旗に對し敬禮 ての事業であつた 右は産業組合教育部の初め

委員會開催 上簇改良督勵

關係に感嘆した。 議し、且つ工場を参観して目 生糸組合に於て、同委員参集 下繰糸中の解舒良好なる原 度の實蹟から見て種々研究協 本年度春蠶對策につき、昨年 四月十四午后三時より竜丘 事があつた。 讓兄は創吟會を作つて集りた

時短時間歸宅され大急ぎで廻!』こ云つて出勤前原隊から『愈々俺も行ける事になつた 人柄を偲ぶのみである。

云ふ調子でお宅で五平餅を頂頭さましく『ヤイドウダ』 ミ つた時があつた。 心持ち黑く日に燒けて現役服

新形時計

造過ぎに來て泊れずに立つ慌 夕刻出發の時刻は迫る。 、以下三面へ續く)

伊

らう事を恥る。 く封を切る。

そして先にむ

線の志氣を鼓舞し、鄕土への奮闘しつつ、各人が各人、戰銃後産業を守り生産力維持に 眞心こめて書きたいものだ 士に一文一通の便りを、折々 維持の守備に任じて居る將兵 心掛りがなくなるまで、様子 路を侵して堂々進軍し、治安 幾百里越えて困苦險

譲兄の愛吟であり且つ一番上滿洲漫吟一篇は今は故き小林 先生も護兄の朗吟を賞嘆した 諏訪中島先生も故人小林洋吉 手なお得意であつた。 男 嘗粉 天人邊年

した。 い三話し乍ら遂出征して戰死 **\Q** 0

こ散つた事は惜しみても余り 一礎石こして、皇軍榮譽の花 失ひ、更に謎兄又皇國發展の 漢詩の良き指導者洋吉先生を がある。無言の凱旋の日は何 時の日か!

花三散りたるを惜しみて其の 將に櫻花旺に散るの時、好漢 ◆蠶室内の頭痛には當藥局の◆養蠶の時期が近づきました

其他衛生御相談に應じます くさけ膏 奬め 頭痛散製劑本舖 致します

桐林 佐々 木 藥

局

0) お買上ご には

よい Columbia 完全な 修 ラヂオ

社特約店 提著音器特賣中 理 (即刻參上)

百目樂器店 一九 番

昭和十三年於下伊那

酒造組合主催

第十六回清酒品 五 評會 泉

言葉は犬に喰はしてしまへだ

良品安價本意で 各團体用の小袋入れは特にお勉めします 進む……若木屋 屋 菓子店 話四三番

ハンコー、新生堂文具店 =定價一部十錢= 誌 報

今回革新政策の一つごして

即ち電気事業は需用供給の 可き性質のものである。

自然に放任すべきものでな

電 力國家管 吾電氣組合どの關係 理 法 5

戦争で最も大切なのは『食

それこそ粗筋だけを申上げ

電氣組合 加 藤 技 師

目の御説明申上げれば大体御 こ、吾組合この關係の大体を 議會を通過した電力國家管理 申上げてみますこ、左の三項 理解が出來るこ思ひます。 、何故電力を國家が管理し 占的に一任して置くこ云ふ て國民の食料を生産する基 ご云ふ有様である事、從つ 割が電氣料金を以て占める 電氣の原料化ご云ふ意味は 即ち電力』を營利會社に獨 本である所の肥料の『原料 **ごの製品價格の四割乃至六** ルミニユーム、ニツケルな 硫安石炭窒素鹽素酸加里ア 三、國家管理になれば吾が イ、電力原料時代 なければならないか 二、國家管理の方法はごう 電氣組合はごうなるか しなければならないか 何故電力を國家が管理 最も著しきものである。 遙かに高く特に農川村に於 てゐる。併し地方に於ては 燈が、平均六拾二銭に下つ 大都市に於て十六燭光の電 に於ける電氣料金の如きは るものがある。例へば農村する三其の滿足する能はざ つて現在の電氣料金を観察

電

好い事ではないこ考へられ 事は、國家的見地から見て 農村電化の重要なる事 の實である水力が開 ごするから、利益の多い處 民營を基調ごする現在の機 實に竜丘電氣は安いのであ いこ云ふ不合理を示してゐ 負擔力の低い所に料金が高 ては比較にならぬ程高い 構に於ては夫々採算を限度 ニ、大規模の水力開發 ります) 番安いので標準にはならぬ る事(長野縣は全國でも一 しか發電しない。従つて國

統一して使用できる事 各發電所の水も諸設備も遊 事を完全に行ふ事は困難で のでは、この綜合化ご云ふ 各會社が別々にやつてゐた んでゐる事がない様に綜合 あるが、國家管理であれば *、各發電所の綜合化 ない恐れがある事

(行發回一月每)

省ミ協力して、農事電化の

奬勵に務めて來てゐるが、

それで遞信省こしては農林

農村電化は疲弊せる農村振

彼され

興の重要項目である。

現在の會社では思ふ様に普

ハ、現行料金の不合理なる 及出來ない三云ふ事

電氣料金は取引の自由に依

へ、國防上からの必要

つて定まるべきものでなく

之は議會の公開の席では陸

細に甲せば切りがないから

られる事。 要のある事業であるこ考へ を置く、個別的企業こは異 如く生産原價に最後の基礎 超越して料金を定むべき必 つて或程度、經濟諸事情を 亦一般商品に於けるが か、る見地に立 談 る。火樂ご食糧の相關關係 國の國防上最重要品であ

窒素であり、農産食料品の簡單に云へば火薬の原料は の發見後は主ミして之が原 生産にも窒素は不可飲のも 料こなつてゐたのである 石に依つてゐた。智利硝石 さへなつて居るのであるが は現在では一般人の常識こ 火薬に必要な窒素は昔は硝 のだこ云ふ事である。

こ云ふたこの事である。 工業化に成功した時、獨帝 藏に存在する空氣中より、 亦一九一三年獨逸のハーバ し王冠を保護する必要品し るに至つたミ傳へられてゐ 』ミ喜び遂に開戰を決意す 世界を征服する事が出 ガイザーは『余は之に依り 電氣に依る空中窒素固定の ー博士が我々の周圍に無盡 來る

明が國家管理の必要なる理以上『1ロハニホへ』の說 **富低廉ミ云ふ事がなければ** 場に轉ずる一切の電氣、化亦特に有事の場合、軍需工 更に軍需工業の獨立は一國 成立しないのである。 學、工業の如きは電力の豐 々防ご絕對的緊要事である 様こするのです 方ですが)

二、國家管理の方法はごうす 之は専問的になるもので詳

に必要なる上に於て共通し火藥ごは何れも窒素が絶對 のの様に思はれるが、決し て居るのである。 ば食ふ爲の糧食ご射つ爲の は一見非常にかけ離れたも この『食ふ事』『別つ事』こ てそうではない。何故なら ふ事』ミ『射つ事』です

出資して終つて發電所だけ である送電線路がない事に 電風城三發電所だけ持つて 居て途中の電氣を送る道路 *、從つて從來の會社は配 ゴロツミ残つて了ふ

硝石を指して『國家を維持

フランス王ヘンリー四世は

方の付値で買はれて、それ 從來の會社は否でも應でも それを配電會社へ賣渡すこ ふこ云ふ事になるのです 貰つて、配電事業だけを行 を亦先方の言ひ値で賣つて 自分の竣生した電力を、先 ト、極端に解り易く云へば 送電の全部を司るのです 云ふ仕組にするので發電ご 力を全部一手に買上げて、 ツミ殘つた發電所の發生電 にある強送電會社が、ゴロ へ、そこで電氣廳の管理下

リ、そこで政府では配電は 全体に電氣を安値に使はせ チ、この方法に依つて國民 へ之は一寸極端な云ひ現し 支一〇七號を飼育し、この上を持つてゐる。日一一一號× 等に比し比較にならん張健さ 交雑種、日一一一號×支一〇 於て夏秋蠶に飼育すべき二化 府縣の飼育する春蠶種歐十六 が果して虫質弱いか、全國に ×支十六、歐十六×支一〇六 七號を春鵞に飼育してゐる縣 は我長野縣だけで、從つて他

の配給なご重要なる事項を設計劃、電力料金並に電力器給發電及び送電設備の建 ロ、今後は民間會社に發電

出して鬼に角八億八千萬圓 投下資本が三拾億圓になる の發送電株式會社を創り之 資せしめ、政府も少し金を 備の中、全國で主用送電線 を管理する。拾年の後には 路ミ火力發電所ミを現物出 所を増設する事を禁ずる ハ、今までにできて居る設

ニ、そこで送電線路を現物

H

支一〇七號は

の如き極めて價値のある品種 即ち日一一一號×支一〇七號 移らんごする傾向がある。 種より蠶質强健なる蠶品種に 蠶品種にあるこなし、優良品 後を受けて之が安定を圖るは 間敷なり、然かも蠶作不良の 近時蠶品種問題が相當八ケ

こする

考が多くなつて

來た事 **强健品種によつてのみ圖らん** 巢×改安等に移り所謂蠶作を を廢止して平和×安泰、改中 今日の一一一號×支一〇七號 は洵に遺憾千萬である。 い良品◆ い良味◆ 0

が『餅わしか』 たしま來出

餅

直

2

な

奴

本院

F

鼎

村

町

方法ミ、精神の大体はお解各項の説明で國家管理法の 以上「イロハニホヘトチリ」 さねミ遞信大臣は議會で答 方が好い
こ思ふからやらせる へて居ります。 るが、

絶對にやらぬこは

申

三、國家管理になれば吾電氣 る譯ですが、それを知るの れば自然(三)の問題は解 (二) の管理方法はごうす の意見ミして大衆新聞に掲 いて名古屋遞信局電氣課長それは飯田市營の問題に付 に一番よい材料があります るか三云ふ事がお解りにな 組合はごうなるか りの事ご思ふ。

載せられたものです 號× (以下次號)

春蠶種ごして 蟲質虚弱なりや

嗚呼! 書かれた句を記して、謹しん 終りに一月末日同君の便りに で哀悼追憶の贐さしたい。 何を云ふ可き

> 出 張 所

出出診

日所目

張 療 場 科

毎日正午より午後五時まで時又 後藤醬院跡内 科 一 般

電話(飯田)三二六番

たでも 面白 ·なるパチンコへ よく出るので

共 遊 戱 塲

時

叉

用 組 合 0

桑園改良經營改善も何時まで ゐるがら、飼育技術の改善も 强健なる

品種に移らん

こして さを考へる時は先進地養 熟慮反省すべきである。 の恥である。よくノー此 日一一一號×一〇七號の强健 の際

> 國民の任務であるからだ。 す此の國債を買ふ事が銃後の 約して貯蓄し、國家が賣り出

經つても出來ないのである

時局 に信 報國貯 金に就

の上に大きな覺悟ミ認識を必 政策が決定せられ、國民經濟 豫算ミニ十八億余の通常豫算 こに依り吾國未曾有の財政 時局は四十八億余圓の軍事

> 生活から出來る限り冗費を節 吾々國民の一人々々は日

卽ちその大部分の豫算が要ごするに至つた。

債

る。

公債買求めに應じる豫定であ

同組合では報國貯金の全額を

口座を作つて貯金を奬める次

つあるから、零細な金錢でも 信用組合が報國貯金を集めつ こも我が組合の貯金に依り、 然し一人々々で買ふ力がなく

第である。

發行に依つて賄れる關係-

常の

お宅の人々こは恐らく語られ のが相變らずの讓兄であつた 飛はすこ、ごつこ笑わされる 且つ聞く間に折々ユーモアを しさの中で、取り園んで語り る隙のない位で土間に立つて しての挨拶が最后の印象であ 『では行つて來ます』こ擧手 (春窓雑筆つゞき) 行く末の思ひを運ぶに

鯉 料 理

仕

出

ι

梅

電の

* 家

話

花

見ご

人の背な

恐ろしき銃砲聲は背なで聞き

(號風骨ご書いてあつた)

御

曾

席

の節は當店で

が滲む。立派な戦死だ。の壯烈な死を想ふ時、眼に淚機闘銃隊の先驅者こして護兄 北支山西省の山岳戦の恨みは柱に、陛下に捧げた其の盡忠 享け難き人生を帝國發展の人

<

て安いので

益々好評な藤屋の菓子

品品 が良

'節向の生菓子 藤 御利用下さい 屋 菓 子

店

開 設

伹し當分のうち隔日(偶數日)出張

車 莊 0 君戰死詳 勇 土

部隊長よりの

今度小林君名譽の戰死御遺

第であります。 勳の御遺族皆々様にお知せ致 知らせ君の生前の赫々たる武 當日の情況及其後の様子を御 斷腸の忍ひでありました。 し君の靈前に感謝感激致す次 淚に咽ぶのみであります。 六日小林君を失ひました事は 今月まで○隊全員が健在で事 成安城出發以來共に參戰致し 族皆々様の心情御察し申上ま が、不幸悲しい事に二月二十 **續く事を神に念じ居りました** 變終了まで、全員が御奉公の す。小兵部隊ミして十月下旬 同只當日の壯烈なる有樣感 ました。城内の敵、相當の數 の中間地區路安岡治橋に着き も續き二十日目的地に兩鐵道 した。狀況急なるか、夜行軍 砲聲のみ目的地に進みま

出發以來京漠綜大原方面の〇 間は君よりお便りありし事ミ 山東河北省の様子、順徳待機 山西省に○○に向ひ攻撃前進 存じます。其後二月八日順德 致しました。 元氣旺盛に出發しました。 ○行動開始ミ共に吾等配慮○ ○戰を通過それより西方山地 ○其の中間他區の戰闘に一同

見へぬ有様共の間を吾等は連 戰三なりました。排日强固な 笑つて居り、呼吸も困難を感 中目的地に猛進致しました 天にも上る如ぐ、 何一丁先も ずる程でありました。 埃は顔に附着お瓦に顔を見て き砂利なく土のこの道路、爲 二月ミは申し雪なく道路の乾 したが、道はなく途中谷間に 午前三時攻撃こなり前進しま 服の高地要所に陣地占領の敵 る八路軍の主力ある大行山々 二月十七日今度の第一回の交 に御承知の如く北支の砂埃に をこる様になりました。 敵彈外り、今日も又戰ふのか 二月二拾六日山岳地帶を今日 ら吾等の頭上にピューくしこ 驚いて居りました。 には明日出るぞ三午前五時起 一日で終り、目的地臨冷平野

馬は隧落する事數頭、如何に

りました。小林君の分隊の活 吾等は進まん。止むなく〇〇 其の後今日も又山に埃ミ小銃 今日一日の戦闘を語りつい を認められ、其の宿は山頂で した。今日程人間の强さを知 ○を分解搬送こなり、各地を 一同無事を喜びました。 動は○○長共に特記すべき功 に午後八時まで猛追撃致しま 撃破しつ、前進、山頂に谷間 便 9

書し、家の入口には書れ、長 みいつまで續く山道か、然し を越へ行く砂塵が惱の種こな に攻撃前進する事になり前進 約五〇里臨冷同浦鐵道臨冷驛 又も第二作戦の爲め大原南方 その慘情は筆記出來得ません り占領、敵の死傷者五百以上 期抗戰動員全民參戰抗日救國 父排日記事は各民家の壁に大 日までの敗戰により遊擊戰法 進みました。彼等八路軍も今 皇軍目的の爲には苦勞を忘れ 致しました。又も大岳山々脈 でありましたが先遣部隊によ 等澤山にあり一同排日强国に び城外に一日滯在致しました 吾等も無事目的地に來るを喜 山には木なく岩石、砂の

君の戦死の地こなりました 小林君 小林君 觸立機關銃前進援後こなりま の攻撃、先方部隊苦戰ミなり 見て攻撃開始、山頂好地より した。灰軍の最も困難ごする 君は!

◆匪賊討伐物語 御通知申上ます。 ●極東は近づく ◆日本に迫る影

◆昭和動員令 ◆政界裏表、快談逸話 ◆我等の無敵空軍 山岡一鐵 ◆非常科學戰隊 伊藤海遊

の地にも慕標を建つべく一部知りつ、前進し、車家莊職死 ◆農業經營及副業善產 ◆實地應用测量法 ●非常時局ご人物 ●次に來るもの極東はごう 國際情報研究會 鈴木東民譯 伊藤壽郎

先進しました時に、當地に至

る一里手前、又も交戰こなり

り毎日の様に友軍の戦死傷を

品遺骨を納め同所には白木の 將兵一同悲しみ其の極に達し 又も出發する事になりました 残念に思ひつ、路安に向ひ 六日浩洞戦車家莊附近の戦闘 君之墓 昭和十三年二月二十 慕標に故陸軍歩兵伍長小林讓 り告別式を終り大葬致し、遺 方六百米賣庄村に於て○○集せんでした。廿八日臨冷驛西 り退却したので残念でなりま 廿七日臨冷城近くに到來敵は ました。時に午後二時五拾分 ある護國の英震こなられた事 た。君の壯烈なる有様、名譽 く感涙に咽ぶのみでありまし 君には聞えず残念なり。敵彈は君の頭部貫通、呼べご 變換攻撃こなり前進中、不幸勝てず、退却を初め吾等陣地 して來て敵も機關銃には打ちで射手こして思ふま、に猛射 隊は攻撃こなり小林君も元氣 又も途中前以上に攻撃戰こな 不便地故お知らせも出來得ず 設致し君の英麗に祈りました こそ君の複襲せんご覺悟して 只吾等は感源極まりて聲もな 所、幸ひ前方高地まで進み小 撃、如何こもできん苦しい場 に於て戰死○○○○○言書き建 事の出來ない場所を見ての攻 坂道、而も右にも左にも行く 一戰もせず退却、吾等は今日 (山西省滿洞線車家莊)尊き 友軍の猛撃によ 四月 三月十日路安に來り十四日に

烈ミなる敵は先方車輛部隊を した。午後二時頃又も來り猛 て一同默禱致し戦死の地ご別 時の事をお尋ねになり、今日 閣下護君の墓標を見られ、當 れ涙新たに出て來ました。 戰ひ終り午后八時頃墓標を建 し先進者一同感謝致しました 來れるぞこ、お言葉を頂戴致 は君の複讐戦十分仇を三つて 余名の戰死傷が出て、〇〇長

ござゐます。 定でござゐます。

> 家 庭 X

E

小林仲太郎樣 三月十一日

0 圖 書館 開

◇開館日御案內 一、記入事項 書名 定價 、第二回希望圖書募集 卅日 十五、二十、廿五 廿九日天長節午前中 以上夜間

までに必ず御返納被下度豫め 位のお手元にある書籍は期日 理を實施致します。愛讀者各 (端午の節句)に貸出書籍整 圖書館の都合上 來月五日 豫 三、締切り日 書箱郵送の場合は部長 四月廿五日

◇昭和十三年購入書籍名 ◆非常時に際し日本國民に 荒木貞夫

小山勝清 鈴木東民譯 夏日一學 17

◆世界征服を目ざすもの ◆少年航空兵こなるには

◆最新巡查試驗問答集 大竹豊秋 Ш

◆小笠原流句結のしるべ ◆人生を幸運にする名前の 附け方字引 水引ご折紙圖解

◆櫻三大和民族 佐藤太平 ◆我等の誇皇國の光 ◆林洗上郎傳 ◆軍國日本血淚史 內外名書『行會 樺山友義

二、届先 各部員

館內投

發行所 著者名 內容概要

◆獵奇犯罪苦心の取繩 ◆秋聲全集 ◆躍るスパイ ◆廣田弘毅傳 第一卷より九卷まで 軍事出版社研究部 搜查研究會編 德田秋聲 大倉矮子 澤田謙

◆白鬼熱風 ◆正しく覺られる支那語入門 ◆着紅のりん形 ●千姫 ◆小島政二郎集 ◆富士に歌ふ ◆長谷川伸集 ◆吉川英治集 ●白井喬二集 ◆維新流血幕末帖 ◆昇る太陽 小島政二郎 三上於鬼吉 臼井高二 富田常雄 長谷川伸 甲賀三郎 吉川英治 前田孤泉 類なら醋酸盃三杯です

口良吉 微 四、再び生地を液の中に入れ をひろげ乍ら三四十分間煮 染めをします。殊に毛織物 こ湧き立たせ、 其の中で布 火力を强くして、ぐらく 倍位多く用ひる。 時間位煮ないご完全に染め は高い温度で時間を長く一

先は取急ぎ小林君の生前の赫 は〇〇の慰靈祭、十五日は〇 て英靈に感謝感激致す次第で 々たる武勳をお知らせ、 ○合同の慰靈祭を執行する豫 合せ

◆天保六花撰

◆昭和動員令

山中峯太郎

げ、一旦さましてから水洗が流れ出ない様に布をひろ

◆日滿會話獨習

鹿島修正 野間清治

五、染め上つたら引き上げ

ふくらんだ氣穴からせん

小林益人

勝禮久子

小山

政次

色のさめたメリンスやセル等

六、ごんな生地でもその儘で

前島秀夫

長 長 庚 庄 二 五 男 女 男 子 男 男

は光澤がないので必ず裏

固くしぼつて風通しのよ

ひします。そしてなるべく

小林俊一小島銀一

邦健昌忠さかえる

二男

所で日かげ干しにする。

×染め方ミ色止めの仕方×

り、絞り染なごにするミカー

らアイロンをかけます。

伊原普二 今村文雄 塚平賴治

ふじ子 をこめ

ちりめんや銀鈔等はヒノ

ンや接布團や、子供の兵兒

を利用して好きな色をかけた

から 館 案 内

かへる事が出來て、大變樂し

宮內重治

長

女

満て

お待棄の

長藤が

父の氏名

續柄

名前

赤

5

P

下田 關島博士

長男 長男 長女

芳 庄 彦 司

へるごまるで違ふものに作り スエーター等もごいて染め換 帶なごに結構役立ちます。

の方がよろしいのです。

根本円通 廣瀬次郎 みなものです。 一、先ず初めに染る布をぬる 別に洗面器に布がらくに入 ま湯につけて置きます。

花月而鶴友 る位、お湯を入れて中火に

三、鹽や醋酸は色止めにも亦 止めに醋酸か鹽を入れ、後めて一度布を引き上げ、色かきまわし乍ら五六分間染 の残りに染料を入れます 半分位入れて(染料は必ず 早く染液の中にたぐりこみ ほつて充分ひろげ乍ら、 す。そして染る布を輕くし りのない様にかきまわしま 湯でよくこかして) かたま 茶碗の様なものに入れて熱 煮え初めたら染料を最 手

御

酒御料理

0 3

良さご安さご なりました

サ

・ビスの 時又驛前

良

さを一度お試めし下さい

毎々御引立の程有数

度う存じます

5

せ

食

堂

花見の時節

各種御料理を揃へてお待ちして居ます

園

是非お遊びに

お出かけ下さ

60

吟き始めました

お茶お酒

す。分量は脈や木綿なら一 築付を良くする爲にも効果 六分の中に必ず入れる事で がありますから、染めて五 酢を代用する時は醋酸の十 反につき鹽一握り程、絹毛 是非翁月の真 製特 特製かしわ餅 港大福 時又銀座 餅餅 港 質出ました

餅

各種御菓子 大福餅を始めました 翁 ※子を御利用下さい 月 菓 子 舖 1

銃 まず健り 上最 下版 肉鳥肉大 りは 康 から 勉强致します

電話二四番 細 亭